

## AV MATERIAL

### ニュースクリップ & 映像教材

#### 協会情報

##### ■第48回「全国自作視聴覚教材コンクール」

###### 作品募集

日本視聴覚教育協会主催、日本学校視聴覚教育連盟、全国高等学校メディア教育研究協議会、全国視聴覚教育連盟共催、文部科学省後援による標記コンクールでは、教育の現場で活用されている自作視聴覚教材を募集している（11頁参照）。

＜部門＞1 小学校、2 中学校、3 高等学校、4 社会教育部門。

＜種別＞映像教材、デジタルコンテンツ、紙しばい等。

＜表彰＞最優秀賞（文部科学大臣賞）各部門各1点、部門通じて、優秀賞8点、入選10点以内。

＜締切＞令和4年6月3日（金）。

＜問い合わせ先＞（一財）日本視聴覚教育協会  
TEL 03-3431-2186

#### 文部科学省情報

##### ■国立教育政策研究所「令和3年度教育研究公開シンポジウム」配信動画公開

国立教育政策研究所は、令和4年2月15日開催の標記シンポジウム「高度情報技術が教育にもたらすインパクト～教育実践・教育研究・教育行政の観点から～」の動画と資料を公開した。

＜内容＞報告1「海外のEdTechガイドブックから見る高度情報技術のインパクト」、招待講演「教育データサイエンスの可能性とその教育」等。

＜問い合わせ先＞国立教育政策研究所

MAIL info@nier.go.jp

#### AV情報

##### ■環境省 環境教育教材作成、公開

環境省では、環境教育の充実を図るため、「みんなで変える地域の未来～脱炭素社会をつくるために～」の教材を作成、公開した。

＜内容＞「脱炭素教材」脱炭素社会を目指す基礎知識についての動画教材、「学びの地図」ESDモデルプログラムと関連付けたWebページ。

＜問い合わせ先＞環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室 TEL 03-5521-8231

##### ■第6回AI・人工知能EXPO（春）

RXJapan（株）主催の標記展示会が開催される。

＜日時＞令和4年5月11日（水）～13日（金）

10：00～18：00※最終日のみ17：00終了。

＜会場＞東京ビッグサイト（東京都江東区有明3-11-1）

＜内容＞ディープラーニング、機械学習、画像・音声認識など。最新のAI技術の展示、セミナー等。要事前申込。

＜問い合わせ先＞RXJapan（株）NextTech Week事務局 TEL 03-3349-8507

##### ■「New Education Expo 2022～未来の教育を考える～」開催

New Education Expo実行委員会（（株）内田洋行他）主催の標記イベントが2会場で開催される。

＜日時＞令和4年6月2日（木）～4日（土）（東京会場）、6月10日（金）・11日（土）（大阪会場）2会場とも、9：30～18：00 ※東京会場開催のセミナーを札幌、旭川、帯広、仙台、名古屋、福岡のサテライト会場に配信予定。

## ■ 協会情報「令和4年度 教育映像祭 優秀映像教材選奨」募集開始

日本視聴覚教育協会主催、文部科学省、毎日新聞社後援による標記選奨では、「教育に利用される映像教材の制作と利用の向上進展を図る」ことを目的に教材を募集する。

＜部門＞1 小学校(幼稚園含)、2 中学校、3 高等学校、4 社会教育(家庭生活向・市民生活向)、5 職能教育、6 教養。※部門1～3においては、【教育映像】(映画・DVD)及び【教育デジタルコンテンツ】(コンピュータソフトウェア)の別により審査を行う。部門4～6においては、【教育映像】のみとする。

＜参加条件＞令和3年6月1日～令和4年5月31日までに完成した作品。

＜表彰＞○最優秀作品賞(文部科学大臣賞、日本視聴覚教育協会会長賞)

○優秀作品賞(日本視聴覚教育協会会長賞)

＜締切＞令和4年6月3日(金)までに、参加申込書と併せて、作品を送付のこと。

詳細は、下記を参照のこと。

<https://www.javea.or.jp/fes/index.html>

＜問い合わせ先＞(一財)日本視聴覚教育協会 TEL 03-3431-2186

＜会場＞東京ファッションタウンTFT(東京都江東区有明3-4-10)、大阪マーチャングッズ・マーケット OMM(大阪市中央区大手前1-7-31)

＜内容＞基調講演、特別講演、ICT機器等の最新の教育向教材展示他。

＜問い合わせ先＞New Education Expo実行委員会事務局(株)内田洋行教育総合研究所内  
TEL 03-5634-6397

## コンクール情報

### ■ 「映文連アワード2022」作品募集

短編映像業界の活性化を図るとともに、次世代を担う新しい才能を発掘し、映像業界のインキュベーターとしての機能を担うことを趣旨に、(公社)映像文化製作者連盟では、作品を募集している。

＜部門＞コーポレート・コミュニケーション、ソーシャル・コミュニケーション、パーソナル・コミュニケーションの3部門。

＜応募要件＞令和3年4月1日～令和4年3月31日までに完成した作品。作品の上映時間は原則として60分以内。参加料1作品につき、一般18,000円、学生6,000円。

＜作品形態＞Blu-rayまたはDVDを原則とし、併せて、USB等でのデータ。

＜賞＞最優秀作品賞(グランプリ)、文部科学大臣

賞、経済産業大臣賞各1点他。

＜締切＞令和4年5月31日(火)消印有効。

＜問い合わせ先＞(公社)映像文化製作者連盟  
TEL 03-3662-0236

### ■ 第48回「日本賞」作品募集

NHKでは、教育コンテンツの質の向上、国際理解の促進に貢献することを使命として、標記コンクールを実施する。

＜資格＞応募作品を制作・放送する、または著作権を有する放送事業者、映像制作プロダクション、コンテンツ制作プロダクション、教育研究機関、非営利活動団体等。個人による応募は受けけない。

＜部門＞1 幼児、2 児童、3 青少年、4 一般、5 デジタルメディア。

＜対象＞部門1～4においては、テレビ番組、映画、ビデオ作品(オンライン配信を含)。部門5では、ウェブサイト、ゲーム、アプリケーションソフトウェア、クロスメディアコンテンツ等。

＜賞＞グランプリ日本賞、各部門最優秀賞他。

＜締切＞令和4年6月30日(木)23:59(日本時間)必着。

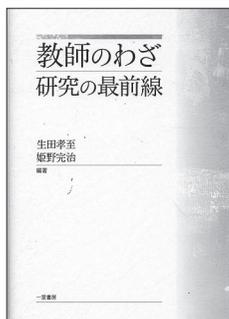
＜問い合わせ先＞日本賞事務局

MAIL [s02703-japan-prize@nhk.or.jp](mailto:s02703-japan-prize@nhk.or.jp)

## 学会情報

## ■ ブックレビュー

### 『教師のわざ 研究の最前線』



生田孝至・姫野完治 編著  
一莖書房 発行  
2022年3月1日発行  
A5判、237頁  
2,000円(税別)

本書は、2016年刊行の『未来を拓く教師のわざ』、2019年刊行の『教師のわざを科学する』に続く「教師のわざシリーズ」の3巻目である。第1巻はいわば入門編で若い教師向け、第2巻及び第3巻は研究者向けでより専門的な内容となっている。今回刊行された『教師のわざ 研究の最前線』は、「第Ⅰ部 教師のわざ 研究の軌跡と最前線」「第Ⅱ部 教師のわざ 解明へのアプローチ」「第Ⅲ部 教師のわざ 伝承へのアプローチ」から構成されている。目次の見出しには、「みえ」を映し出す、教師の「みえ」の多様性、多様な授業の「みえ」を人材育成に生かす、「みえ」の

分析によるわざの伝承など「みえ」という言葉が多用され本書のキーワードになっていることがわかる。ページをめくると、これまで可視化することが難しかった教師のわざを映し出すための取り組みとして360度カメラやウェアラブルカメラなどの機器を用いた実践的研究が多数紹介されている。これは本書の内容が日本学術振興会から研究助成を受けた「授業認知の位相転換に基づく授業技術の向上を支援するVR映像プラットフォームの構築」(基盤研究(B) 研究代表者:生田孝至)の成果に基づくものだからである。研究者ではない学校現場の教師にはやや難解な部分もあるが、編者の「卓越した教師のわざを学びたいと願っている人の力になりたいという一貫した思い」が色濃く反映されているので最後まで読み通すことができる。コロナ禍によりオンライン授業は特別なものではなくなった。今後、教師のわざは対面授業だけでなくオンライン授業においても問われるようになるだろう。本書及び本シリーズの可能性はコロナ禍によって一層高まったと言える。これからの利活用に期待が持たれる良書である。

(前淑徳小学校長 多田元樹)

## ■ 日本教育工学会研究会「AI・ロボットを活用した教育／一般」

日本教育工学会では、標記をテーマに研究会をオンラインにより開催する。

<日程>令和4年5月28日(土)

<内容>AI・ロボットを活用した教育に関する研究報告、教育工学一般に関する発表等。参加費1,000円。要事前申込。

<問い合わせ先>研究会委員会

MAIL study-group-core@jset.gr.jp

## 文部科学省選定作品

### ■ 3月選定

3月の審査会はなし。

映像作品等選定一覧の詳細は、下記を参照のこと。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/movie/main9\\_a1.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/movie/main9_a1.htm)

## 短信

■ 本誌4月号提言「教育データ利活用ロードマップ」について、執筆者横田洋和氏のご異動にともない、内容のお問い合わせは、デジタル庁国民向けサービスグループ教育班まで。

※ 本欄掲載のイベント開催等の最新情報は、主催者<問い合わせ先>に、ご確認ください。